

史跡足利学校 孔佩群さん

孔子の教えを受け継ぎ書物の保存・普及に人生を捧ぐ



施設のガイドを務める孔さん

3000人の生徒が儒学を学び、1549年に来訪したフランシスコ・ザビエルは「日本国中最も大にして、最も有名な坂東の大学」と世界に発信した。

日本最古の学校で教育の原点と言われている足利学校。創建については諸説あるが、歴史が明らかにするのは室町時代の1439年である。関東管領の上杉憲実（のりざね）が書籍を寄進し、鎌倉円覚寺から僧・快元（かいげん）を招き、初代の座主（しようしゅ）として経営にあたらせた。興隆期の室町時代には



足利学校の玄関「入徳門」

産である貴重な書物が納められた図書館だ。土蔵とあわせて3万2000冊が保管されている。そのうち古書は1万7000冊。77冊が国宝、98冊が重要文化財の指定を受けている。

学校門の正面を進んだ先には儒教の祖・孔子を祀る「孔子廟」がたたずむ。徳川幕府4代將軍家綱の時代に造営されたもの。そして、孔子廟の隣には講義や学習が行われた「方丈」と呼ばれる学舎が立ち、それを挟む北庭園・南庭園の緑が建物より引き立てる。

学習の大半は論語を読み、書き写す自習形式。ここで学んだ僧たちは卒業後、地元に戻り「君子として儒学の普及・伝播に努めた」という。そんな足利学校の見どころを案内してくれたのが、嘱託職員として勤める孔佩群（こうはいぐん）さん。孔子の76代子孫にあたる人だ。



多い時で3000人以上が論語を読みふけた方丈

孔子廟があることを初めて知った。「ここで働きたい」。すぐさま足利市役所へ問い合わせ、その後職員の登録を行った。

孔さんは「孔子の教えが日本でここまで受け継がれていることが、何より感動しました」と語る。市役所の職員も、孔子の子孫だと知って大層驚いたという。

定期的開催される論語大会では司会も務める。さらに「最も緊張する」と本人が話すのが「曝書（ばくしょ）」と呼ばれる書物の点検作業だ。

足利学校は何度かの火災が原因で焼失してしまっただけでなく、その意図を私たちが引き継がなければなりません」と真剣な表情をみせる。

孔さんは中国の大学で教育学を専攻。何かを人に説明したり教えたりするのが大好きだと話す。13年前に結婚し日本に移り、子供2人の世話に追われながら独学で日本語を勉強した。

足利学校の「宣伝活動も行い、ここ前は群馬県太田市市の教育委員会に勤務。その頃たまたま観光で足利学校に来たのが今の仕事との出会いだった。ちょうど方丈で論語大会が行われていた。

毎年の伝統行事として、重要文化財等の書物の一部を虫干しし、保存状態を確認する。状態の悪いものは写真に撮り、修復依頼をかける。作業中は化粧や香水は一切禁止されている。

家では代々、儒教にある「仁・義・礼・智・信」の五常の教えを守ろうと言われてきた。「親を大切にすること、忠実であること。特にこの2つを大切にしていきたい」と孔さんは語った。